

新穂高溪流保全工における環境配慮について

蒲田川流域は北アルプスの荒廃地に属し、近年でも土石流が発生するなど不安定土砂が河道に堆積しています。一方で観光施設である新穂高ロープウェーや新穂高温泉に多くの観光客が訪れています。

このような背景から蒲田川の支川である左俣谷と右俣谷の合流点付近では、景観・生態系に配慮しつつ、新穂高溪流保全工の整備を推進しています。

今回溪流保全工の整備に伴い、ドロノキが伐採されることから、ドロノキに生息する貴重種に影響を与える可能性がある為、環境保全の一環として代替地へのドロノキ移植やドロノキに生息する動物の保護を行いました。



図. 伐採箇所の状況

【ドロノキの移植】

ドロノキはヤナギの仲間で、挿し木による移植が可能であることから、伐採前のドロノキから枝葉を剪定し、7月9日に移植先である地獄平砂防堰堤上流の右岸（人工水路周辺）に挿し木を行いました。

当日は、小雨の降る天候でしたが、栃尾小学校4年生の皆さんや、高原川漁業協同組合の組合員、NPO神通砂防の方々、専門家のご協力を得て約100本のドロノキの挿し木を行いました。

その後の観察では、挿し木した多くのドロノキが順調に生育していることが確認されています。



移植先の状況



移植の状況



移植後のドロノキ

【ドロノキに生息する動物の保護】

ドロノキは、鳥や昆虫などの生息場等として機能していることから、9月29日に伐採したドロノキに生息する動物を調査し、特に移動力の少ない昆虫等に注目して、ドロノキに生息する動物の保護を行いました。

当日は、専門家等のご協力を得て、2本のドロノキについて全ての枝葉を調査し、コムラサキの幼虫などを採集しました。採集した幼虫などについては、後日、周辺のドロノキ等に放す予定としています。



伐採直後のドロノキ



動物の調査状況



コムラサキの幼虫